

担当講座	産婦人科学講座			問合せ先	産婦人科学講座		
分野責任者	馬場 長 教授			連絡先	内線 3750		
担当教員	馬場 長 教授 小山 理恵 特任教授 庄子 忠宏 准教授 利部 正裕 特任准教授 永沢 崇幸 特任講師 岩動 ちず子 助教 羽場 蔽 助教 佐藤 翔 助教 村上 一行 任期付助教 川村 花恵 任期付助教 佐藤 千絵 任期付助教						
人材育成の 基本理念	産婦人科は女性の健康に寄り添う。卵子から胎児、出生後も思春期、成人期、更年期、老年期と、多様なライフステージの中で女性は心身の揺らぎと疾患に直面する。産婦人科では個々の妊婦・患者について、病態と社会背景に応じた個別化医療を提供しなければならない。すなわち、周産期医学、婦人科腫瘍学、生殖内分泌学、ヘルスケアという主要分野について体系的な教育を行い、女性の一生に寄り添う医療を供することのできる人材の育成に努める。						
主な研究内容	産婦人科領域における臨床ならびに基礎研究を行う。						
教育成果 (アウトカム)	教育成果					該当するディプロマポリシー	
	婦人科腫瘍（子宮内膜症・生殖医学を含む）あるいは周産期に関わる診療の中で、臨床研究およびこれに関連する基礎的研究を行うことで、産婦人科領域の研究を指導できるレベルに到達する。					1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8	
到達目標	到達目標			対象科目			
	(1)生命科学や、医学研究のための基本的な知識を活用できる。			ベーシックセミナー、生殖医学、婦人科内分泌学、婦人科腫瘍学、産婦人科病理学、婦人科治療学、胎児・新生児医学、産科画像診断、胎児治療学			
	(2)適切な研究デザイン、解析法を立案し実施できる。			研究方法論、生殖医学、婦人科内分泌学、婦人科腫瘍学、産婦人科病理学、婦人科診断学、婦人科治療学、胎児・新生児医学、産科画像診断、胎児治療学			
	(3)得られた研究結果を正しく解釈できる。			特別研究ⅠⅡⅢ、婦人科腫瘍学、産婦人科病理学、婦人科診断学、婦人科治療学、胎児・新生児医学			
	(4)解析結果ををまとめ、発表できる（英文が望ましい）。			特別研究ⅠⅡⅢ、産婦人科病理学、産科画像診断			
	(5)病因の解明や治療法の発展に寄与できる。			特別研究ⅠⅡⅢ、婦人科治療学、胎児・新生児医学、婦人科腫瘍学、婦人科診断学			
	(6) 次世代の人材育成に貢献できる。			特別研究ⅠⅡⅢ、大学院セミナー			
	(7)生殖医学の理論・手技について学び、生殖医療について概説できる。			生殖医学、婦人科内分泌学、産婦人科手術学			
	(8)産科・婦人科診断学について学び、産科・婦人科疾患の診断について概説できる。			婦人科診断学、産科画像診断、婦人科腫瘍学、婦人科治療学			
	(9)産婦人科手術学について学び、手術手技や手術療法について概説できる。			産婦人科手術学			
	(10)産婦人科病理学について学び、産婦人科疾患の病理診断について概説できる。			産婦人科病理学、婦人科診断学、婦人科治療学			
	(11)婦人科腫瘍学について学び、婦人科腫瘍に対する治療法について概説できる。			婦人科腫瘍学、婦人科治療学、産婦人科病理学、産婦人科手術学			
	(12)胎児・新生児医学について学び、胎児・新生児の発育状態について概説できる。			胎児・新生児医学、産科画像診断			
	(13)胎児治療学について学び、胎児診断や治療法について概説できる。			胎児治療学			
資格取得等	特になし。						
履修に関する 情報	社会人大学院生など、勤務等で授業に出席できない場合は、日程の調整に応じる。入学時より前半の2年間の間に共通教育科目の必修科目「研究方法論（1単位）」に加えて、選択必修科目を履修することが望ましい。（問合せ先：産婦人科学講座・内線 3750）。						

●在学中に履修できるカリキュラム

区分		配当年次	科目名		開講	コマ数	単位	修了までに 必要な単位	備考
研究特論	選択必修	1～4年	演習	生殖医学	後期	15	2	20単位	※20単位以上の単位取得可
			講義	婦人科内分泌学	前期	15	2		
			講義	婦人科腫瘍学	通年	30	4		
			講義・演習	産婦人科病理学	後期	15	2		
			演習	婦人科診断学	前期	15	2		
			演習	産婦人科手術学	前期	15	2		
			演習	婦人科治療学	後期	15	2		
			講義	胎児・新生児医学	通年	30	4		
			演習	産科画像診断	前期	15	2		
			演習	胎児治療学	後期	15	2		
特別研究	必修	2年		特別研究Ⅰ（初期審査）	通年	8	1	4単位	※2021年度以降入学者 対象科目
		3年		特別研究Ⅱ（中間審査）	通年	8	1		
		4年		特別研究Ⅲ（論文作成）	通年	15	2		

※他分野の単位取得は分野責任者に相談の上、教務課へ連絡してください。

●各科目の授業計画

産婦人科学

コード	MD15171010					MD15171020					MD15171030					MD15171040					
科目	生殖医学					婦人科内分泌学					婦人科腫瘍学					産婦人科病理学					
科目責任者	馬場長					小山理恵					馬場長					馬場長					
担当者	馬場長、佐藤千絵					小山理恵、村上一行					馬場長、庄子忠宏、利部正裕、永沢崇幸					馬場長、永沢崇幸、佐藤翔、佐藤千絵					
会場	リプロダクションセンター					産婦人科医局、リプロダクションセンター					女性入院病棟/産婦人科医局					中央手術室/産婦人科医局					
区分等	区分	演習	単位	2		区分	講義	単位	2		区分	講義	単位	4		区分	講義・演習	単位	2		
	回数	後期15回		配当年次	1～4	回数	前期15回		配当年次	1～4	回数	通年30回		配当年次	1～4	回数	後期15回		配当年次	1～4	
主な授業内容	高度不妊治療の理論・手技の基礎についてガイドラインや文献を参考に臨床現場で修学する。					婦人科内分泌の正常・異常の基礎について文献・ガイドラインを用いて修学し、女性医学の意義を探索する。					婦人科の良性・悪性腫瘍についてベッドサイド講義を行うとともに、自らも症例報告や文献検索・レビューを行う。					産婦人科病理診断および臨床検体の取扱いを含めてガイドラインおよび文献を用いて学ぶと共に実際の標本を用いての鏡検・検討を行う。					
教育成果	アウトカム	通常不妊治療および高難度不妊治療について経験を積むことにより、専門科目についての理解を深める。					婦人科内分泌学の正常・異常について修得を行うことにより、専門科目についての理解を深める。					婦人科の良性・悪性腫瘍学について修得を行うことにより、専門科目についての理解を深める。					産婦人科病理診断について臨床検体の取扱いを含めて修得を行うことにより、専門科目についての理解を深める。				
コンピテンス番号/達成度	コンピテンス1	コンピテンス2	コンピテンス3	コンピテンス4	コンピテンス5	コンピテンス1	コンピテンス2	コンピテンス3	コンピテンス4	コンピテンス5	コンピテンス1	コンピテンス2	コンピテンス3	コンピテンス4	コンピテンス5	コンピテンス1	コンピテンス2	コンピテンス3	コンピテンス4	コンピテンス5	
	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	
	コンピテンス6	コンピテンス7	コンピテンス8			コンピテンス6	コンピテンス7	コンピテンス8			コンピテンス6	コンピテンス7	コンピテンス8			コンピテンス6	コンピテンス7	コンピテンス8			
	C	C	C			C	C	C			C	C	C			C	C	C			
特記事項	各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 【2021年度以降の入学者】 全講義後終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。 「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 【2020年度までの入学者】講義の出欠は履修手帳で管理する。 <当該科目に関連する実務経験の有無 有> 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。																				
評価方法	【2021年度以降の入学者】「受講票・履修報告書」により総合的に評価する。成績は、ABCD (A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点)の4段階評価とし、ABC (60点以上)を合格とする (60点未満は再提出)。 【2020年度までの入学者】出席、レポートなどにより総合的に評価する。																				
講義日程	時間割参照																				
教科書参考書																					

コード	MD15171050					MD15171060					MD15171070					MD15171080				
科目	婦人科診断学					産婦人科手術学					婦人科治療学					胎児・新生児医学				
科目責任者	庄子忠宏					利部正裕					馬場長					小山理恵				
担当者	庄子忠宏、佐藤翔、佐藤千絵					利部正裕、永沢崇幸、羽場巖、村上一行					馬場長、庄子忠宏、利部正裕、永沢崇幸					小山理恵、岩動ちず子、羽場巖、佐藤千絵				
会場	女性入院病棟/カンファレンスルーム					中央手術部/カンファレンスルーム					産婦人科医局/カンファレンスルーム					MFICU/産科病棟/産婦人科医局				
区分等	区分	演習		単位	2	区分	演習		単位	2	区分	演習		単位	2	区分	講義		単位	4
	回数	前期15回		配当年次	1～4	回数	前期15回		配当年次	1～4	回数	後期15回		配当年次	1～4	回数	通年30回		配当年次	1～4
主な授業内容	婦人科の良性・悪性腫瘍の病期診断および予後診断をより正確に行えるよう、既知の理学的検査、画像検査、病理検査について修練を行うとともに、文献検索と調査研究を行う。					婦人科良悪性腫瘍および不妊症症例の手術および産科手術について手術室での修練および、画像や文献での検討を行う。					婦人科悪性腫瘍に対する新規治療法開発について橋渡し研究および臨床治験の実業務に携わりながら研鑽する。					各種超音波断層法や胎児心電図など胎内診断・新生児医学について、講義および文献検索を行う。				
教育成果 5	婦人科の良性・悪性腫瘍の診断について症例検討を通して修得を行うことにより、専門科目についての理解できるようになる					婦人科良悪性腫瘍および不妊症症例の手術および産科手術の適応と実際について修得を行うことにより、専門科目についての理解できるようになる。					婦人科悪性腫瘍に対する新規治療法としてゲノム診療および医師ないし企業主導治験について修得を行うことにより、専門科目について理解できるようになる。					胎児・新生児医学について修得を行うことにより、専門科目についての理解できるようになる。				
コンピテンス番号/達成度	コンピテンス1	コンピテンス2	コンピテンス3	コンピテンス4	コンピテンス5	コンピテンス1	コンピテンス2	コンピテンス3	コンピテンス4	コンピテンス5	コンピテンス1	コンピテンス2	コンピテンス3	コンピテンス4	コンピテンス5	コンピテンス1	コンピテンス2	コンピテンス3	コンピテンス4	コンピテンス5
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	コンピテンス6	コンピテンス7	コンピテンス8			コンピテンス6	コンピテンス7	コンピテンス8			コンピテンス6	コンピテンス7	コンピテンス8			コンピテンス6	コンピテンス7	コンピテンス8		
	B	B	B			B	B	B			B	B	B			B	B	B		
特記事項	各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 【2021年度以降の入学者】 全講義後終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。 「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 【2020年度までの入学者】講義の出欠は履修手帳で管理する。 <当該科目に関連する実務経験の有無 有> 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。																			
評価方法	【2021年度以降の入学者】「受講票・履修報告書」により総合的に評価する。成績は、ABCD (A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点)の4段階評価とし、ABC (60点以上)を合格とする (60点未満は再提出)。 【2020年度までの入学者】出席、レポートなどにより総合的に評価する。																			
講義日程	時間割参照																			
教科書参考書																				

●各科目の授業計画

産婦人科学

コード	MD15171090					MD15171100					MD15179010					MD15179020				
科目	産科画像診断					胎児治療学					特別研究Ⅰ					特別研究Ⅱ				
科目責任者	小山理恵					岩動ちず子					各（正）指導教員					各（正）指導教員				
担当者	小山理恵、岩動ちず子、羽場巖、川村花恵					岩動ちず子、羽場巖、川村花恵					各指導教員					各指導教員				
会場	MFICU/産科病棟/産婦人科医局					MFICU/中央手術室/カンファレンスルーム					各指導教員と相談の上決定					各指導教員と相談の上決定				
区分等	区分	演習	単位	2		区分	演習	単位	2		区分	演習	単位	1		区分	演習	単位	1	
	回数	前期15回	配当年次	1～4		回数	後期15回	配当年次	1～4		回数	通年8コマ	配当年次	2		回数	通年8コマ	配当年次	3	
主な授業内容	妊娠子宮、胎盤、胎児の超音波画像診断および産褥婦のMRI画像診断について症例検討を行う。					妊娠子宮、胎盤、羊水、胎児の異常に対する内科的・外科的治療について症例検討およびの文献検索、調査研究を行う。					・生命科学や研究手法の基礎的な知識 ・研究計画調査の作成 ・初期審査の準備					・生命科学や研究手法の専門的な知識 ・中間審査の準備				
教育成果	妊娠子宮、胎盤、胎児の画像診断および産褥婦の画像診断について症例検討を通して修得を行うことにより、専門科目についての理解できるようになる。					妊娠子宮、胎盤、羊水、胎児の異常に対する内科的・外科的治療の適応と実際について修得を行うことにより、専門科目についての理解できるようになる。					生命科学や研究手法の基礎的な知識を身につける。研究内容の討議を行い、質問に対し、適切に答えることができる。 ＜初期審査＞2年次末までに実施。研究指導教員同席のもと非公開で実施する。研究計画調査等に基づき、研究の概要について口答で説明し、その妥当性について審査を受け、今後の研究の進め方について指導を受ける。					生命科学や研究手法の専門的な知識を身につける。研究内容の討議を行い、質問に対し、適切に答えることができる。 ＜中間審査＞3年次末までに実施。研究指導教員同席のもと非公開で実施する。研究計画調査に基づき、研究の概要及び進捗状況について口答で説明し、現在に至るまでの過程及び初期審査時の目標の達成度等について審査を受け、今後の研究の進め方について指導を受ける。				
コンビ・テンス番号/達成度	コンビ・テンス1	コンビ・テンス2	コンビ・テンス3	コンビ・テンス4	コンビ・テンス5	コンビ・テンス1	コンビ・テンス2	コンビ・テンス3	コンビ・テンス4	コンビ・テンス5	コンビ・テンス1	コンビ・テンス2	コンビ・テンス3	コンビ・テンス4	コンビ・テンス5	コンビ・テンス1	コンビ・テンス2	コンビ・テンス3	コンビ・テンス4	コンビ・テンス5
	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	C	C	C	C	C	B	B	B	B	B
	コンビ・テンス6	コンビ・テンス7	コンビ・テンス8			コンビ・テンス6	コンビ・テンス7	コンビ・テンス8			コンビ・テンス6	コンビ・テンス7	コンビ・テンス8			コンビ・テンス6	コンビ・テンス7	コンビ・テンス8		
	A	A	A			A	A	A			C	C	C			B	B	B		
特記事項	各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 【2021年度以降の入学者】全講義後終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 【2020年度までの入学者】講義の出欠は履修手帳で管理する。 ＜当該科目に関連する実務経験の有無 有＞ 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。										各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 初期審査の詳細は、「初期・中間審査の手引き」を参照。					各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 中間審査の詳細は、「初期・中間審査の手引き」を参照。				
評価方法	【2021年度以降の入学者】「受講票・履修報告書」により総合的に評価する。成績は、ABCD（A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点）の4段階評価とし、ABC（60点以上）を合格とする（60点未満は再提出）。 【2020年度までの入学者】出席、レポートなどにより総合的に評価する。										「受講票」により総合的に評価する。成績は、ABCD（A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点）の4段階評価とし、ABC（60点以上）を合格とする（60点未満は再提出）。									
講義日程	時間割参照																			
教科書参考書																				

コード	MD15179030																			
科目	特別研究Ⅲ																			
科目責任者	各（正）指導教員																			
担当者	各指導教員																			
会場	各指導教員と相談の上決定																			
区分等	区分	演習		単位	2															
	回数	通年15コマ		配当年次	4															
主な授業内容	・生命科学や研究手法の発展的な知識 ・論文作成 ・最終試験の準備																			
教育成果	生命科学や研究手法の発展的な知識を身につける。最終試験に向けて、情報を適切に分析し、論旨を展開できる。 ＜論文作成＞学位申請までに実施。論文作成に向けたデータ収集や解釈、図譜の作成や記載ができ、論文を作成できる。																			
コンビ・テンス番号/達成度	コンビ・テンス1 A	コンビ・テンス2 A	コンビ・テンス3 A	コンビ・テンス4 A	コンビ・テンス5 A															
	コンビ・テンス6 A	コンビ・テンス7 A	コンビ・テンス8 A																	
特記事項	各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 最終試験の詳細は、「最終試験の手引き」を参照。																			
評価方法	「受講票」により総合的に評価する。成績は、ABCD（A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点）の4段階評価とし、ABC（60点以上）を合格とする（60点未満は再提出）。																			
講義日程	時間割参照																			
教科書 参考書																				

●時間割

産婦人科学

【前期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8：50～10：20		産科画像診断				
2 限	10：30～12：00						
3 限	13：00～14：30					婦人科腫瘍学	研究方法論
4 限	14：40～16：10	胎児・新生児医学	産婦人科手術学			婦人科診断学	
5 限	18：00～19：30	特別研究Ⅰ～Ⅲ			婦人科内分泌学		
6 限	19：40～21：10						
【後期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8：50～10：20		胎児治療学				
2 限	10：30～12：00						
3 限	13：00～14：30					婦人科腫瘍学	研究方法論
4 限	14：40～16：10	胎児・新生児医学			生殖医学	婦人科治療学	
5 限	18：00～19：30	特別研究Ⅰ～Ⅲ	産婦人科病理学				
6 限	19：40～21：10						

<履修スケジュール> ※各自記録してください。

【前期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8：50～10：20						
2 限	10：30～12：00						
3 限	13：00～14：30						
4 限	14：40～16：10						
5 限	18：00～19：30						
6 限	19：40～21：10						

【後期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8：50～10：20						
2 限	10：30～12：00						
3 限	13：00～14：30						
4 限	14：40～16：10						
5 限	18：00～19：30						
6 限	19：40～21：10						